

平成28年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技大会展望

文：中島 洋己

(静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立科学技術高校教諭)

平成28年度静岡県高校新人大会バスケットボール競技が平成29年1月22日に藤枝順心高校体育館他で開幕する。草薙このはなアリーナで28日に準々決勝、29日に準決勝、決勝、3位決定戦が行われ、男女3位までが2月11日、12日に三重県・県立夢ドームうえの、HOS 名張アリーナで開催される東海高校新人大会への出場権を獲得する。また1月29日13時から平成28年度静岡県協会高校部優秀選手男女24名の表彰式も合わせて行われる。

今大会では先月のウィンターカップ2016でも大活躍した浜松学院男子・ダシルバヒサシ、浜松開誠館女子・石田悠月というトップレベルのプレイヤーが全国の檜舞台を経験し県内に凱旋する大会となる。多くの熱い戦いを期待したい。

【男子】

優勝候補最右翼は昨年末ウィンターカップで強豪・八王子学園八王子を破り見事全国16強となり、今大会でも連覇を狙う**浜松学院**。静岡全中優勝世代の田中、横川、伊藤ら3年生は引退したが、相変わらず層の厚い戦力を誇る。チームを牽引する**ダシルバヒサシ**は内外角からの得点、特にドライブの破壊力が抜群。強靱なフィジカルを誇り、八王子戦でも21点超の留学生ドウドウ・ゲイとリバウンドを競り合い24得点、12リバウンドを記録、華麗なプレースタイルで見る者の心も魅了するスーパースターである。スコアラーの**石川晴道**はウィンター県予選決勝・沼津中央戦でも3Pシュート4本を含む27得点、ウィンター2回戦の八王子戦でも最終Qで見事に逆転の3Pを決めチームに大金星をもたらした。敗れた3回戦・北陸学院戦でも終盤に連続得点し強豪相手に肉薄するなど勝負強いプレイヤーである。さらに、180センチを超える長身で鍛え抜かれた脚力でランニングプレーが自慢の**亀山懂哉**、**小池玲史**などが持ち味の粘り強いディフェンスからの速攻を仕掛ける。長らく続いた4強時代から浜松学院独走時代に突入するのか試金石となる大会である。

浜松学院を追うのは各地区予選優勝チームの飛龍、藤枝明誠、浜松開誠館とウィンター県予選準優勝の沼津中央が挙げられる。

飛龍は全員で攻めて全員で守る「全員バスケット」が特徴。エース・**松下裕汰**は鋭いドライブからの得点能力に長け、リバウンドにも積極的に参加するチームの柱である。昨年の岩手国体でも出場機会に恵まれ経験値の上積みをした。アウトサイドからの得点源・**伊東潤司**はウィンター県予選準々決勝・静岡市立戦で3Pシュート9本を含む39得点、空いたスペースを見逃さず積極的に攻撃を展開するシューターである。**関屋心**は1vs1に絶対の自信を持ち相手と駆け引きしながら試合をコントロール出来る選手で、東部新人決勝でもサンブー相手にドライブで切り込みシュートを決める場面も見受けられた。195センチ、期待の中国人留学生・**張述凱**も少しずつプレイングタイムが増えてきた。沼津中央戦で見せた圧倒的な強さから飛龍を打倒・浜松学院の一番手に挙げたい。

中部新人覇者の**藤枝明誠**はチーム唯一の県内中学出身選手・**高木卓也**が主将となり、抜群のキャプテンシーでチームをまとめる。中部新人決勝・静岡学園戦でも17得点を奪い、さらにアシスト、リバウンド、巧みなディフェンスを見せるなどチームの大黒柱としてフル回転をした。決勝では2人のセンター・**張新鋒**との呼吸が十分に合わず、張の長身を生かしたゴール下のプレーを導けなかったが、持ち味のスピードあふれるドライブは相手の脅威となる。ガードの**中村和磨**は下級生ながらゲームコントロールがうまく3Pシュートの成功率も高い。まずは去年逃した東海新人出場を目指し、その先にある3年ぶりの優勝を狙う。

浜松開誠館はここ4年間常に県大会ベスト8以上をキープしているが4強入りは平成25年度の県総体、県新人のみにとどまっている。西部新人覇者として出場するこの大会は4年前に逃した初の東海新人出場、そして県新人優勝への千載一遇のチャンスといえる。**松本うみ**、**神田誠仁**、**田中勇樹**を中心とした鍛えられたフィジカルが特徴のチームで、特に神田は岩手国体の県選抜に唯一1年生として選ばれた逸材である。初戦の山形県戦では得点も決め、続く準々決勝・福岡県戦でも出場機会を与えられ貴重な実戦経験を積んだ。男子4強時代を打ち破るためにもまずは準々決勝で対戦が予想される強豪・沼津中央との戦いを制し、東海新人出場そして県制覇を狙う。この戦いは今大会屈指の好カードとして注目を集めることだろう。

ウィンター県予選準優勝・**沼津中央**は東部新人決勝で飛龍に敗れたが、ゴール下の要である**サンブー・アンドレ**を擁し優勝候補の一角であることに間違いはない。県内随一の高さを誇り、類まれなる得点能力を持つサンブーだが、ウィンター県予選決勝ではメンタル面の弱さを露呈してしまった。東部新人決勝でもファウルトラブルに苦しみ十分な力を発揮できなかったが、どんな状況下でも自分をコントロールしチームの大黒柱としての活躍が出来れば、チームを5年ぶりの優勝に導く可能性は十分ある。そしてサンブーにボールをつなぐ役割として**渡辺僚**のいぶし銀の働きも見逃せない。ウィンター県予選決勝でもスティール、アシストなどつなぎのプレーから自らゴールに切り込んで行くプレーなど八面六臂の活躍を見せたが途中でファウルアウト。最後の大切な場面でチームに貢献できなかった。彼の活躍が今後のチーム浮上のカギを握っている。

その他、中部新人準優勝の原動力となったエース・**石部歩希**を擁する**静岡学園**、**刑部克輝**、**斉藤駿祐**、**玉木健太郎**などポテンシャルの高い選手が揃う西部予選準優勝の**浜松西**、ウィンター県予選ベスト8、東部新人も3位となった**加藤学園**、そして昨年この大会そして県総体、連続してベスト8入りし、さらにはエース・**菊澤裕**の活躍などで東部選手権優勝、東部新人は4位に甘んじたがチーム全体が確実に力をつけている**三島北**などが「5強」を追い、東海新人出場を狙う。

また中部3位で出場する**静岡**にも注目したい。4月の総体地区予選ではまさかの初戦敗退、県大会出場を逃してしまっていたが、その後たゆまぬ努力と精進の結果、この中部新人で一気に3位に入り3年ぶりの県新人出場を決めた。司令塔・**小前利徳**の優れたパスワークと果敢にゴール下に切れ込む突破力が県大会でどこまで通用するのか、まずは初戦の富士宮東戦で見極めてみたい。

【女子】

ウィンターカップで全国の強豪相手に3連勝し見事ベスト8に入った**浜松開誠館**が優勝の大本命と言える。陽本、栗田というチームの柱は抜けたが、**石田悠月**という新たな大黒柱がその穴を十分に埋めていくはずだ。相手ディフェンスを置き去りにするドライブの威力は天下一品で、全国でも十分通用することが証明された。特にウィンター3回戦の湯沢翔北戦では26得点、その試合で見せたバックドアからのバスケットカウントはまさに「超美技」であった。シュートも多彩でアウトサイドからの3Pが決められることが強み。ウィンター4試合で76得点を挙げた爆発的な得点力でチームのオフENSEを引っ張っていくことは間違いない。そしてインサイドにはターンシュートが得意な**樋口栞帆**が待ち構える。ウィンターでは十分な出場機会には恵まれなかったが県選抜選手としてゴール下の攻防で持ち味を発揮してくれることを信じている。また**石牧葵**、**鈴木侑**の1年生コンビの活躍にも注目したい。石牧はウィンター1回戦・中津北戦で21得点。1vs1に絶対の自信を持ち、ディフェンス面でも相手に時間を使わせるクレバーな選手である。鈴木はウィンター2回戦、総体ベスト8の就実相手に勝負どころで度胸ある3Pを2本決めて勝利の立役者となった。開誠館にとってこの新人大会は県内大会で唯一優勝経験のない大会である。チームの戦力も充実期にあり、得意のロースコアゲームに持ち込み、新人戦初優勝を飾り「総体・選抜・新人」の県内三冠を目指す。

王者・浜松開誠館を追うのはやはり各地区予選の覇者・市立沼津、駿河総合、浜松海の星と常葉学園、そして連覇を狙う浜松学院だろう。その中でもまずは駿河総合に注目したい。

中部新人覇者の**駿河総合**は、ウィンター県予選決勝で浜松開誠館に延長の末敗れ全国を逃した雪辱を期して今大会に臨む。西村、加藤というチームの柱は抜けたが戦力的には浜松開誠館同様充実している。エース・**長嶋アンソニー真弥**はチームのスコアラーで中部予選決勝・常葉学園戦では34得点を決めた。抜群の勝負強さを持ちスピードある突破力も兼ね備え、当たり負けしないプレーで得点が重ねられるオールラウンドプレイヤーである。また**小山内パメラウーゴ**はランプレーを得意とし積極的にリバウンド争いに参加して得点に絡んでくる。この得点源2人を支えるのが**寺尾友里**と**西尾優香**。寺尾は176センチの長身を生かしたジャンプショットと外でも中でも器用にプレーが出来ることが特徴。西尾もリバウンド、ルーズボールなど玉際の泥臭いプレーを一生懸命こなす縁の下の力持ち的な存在である。外からはシューターの**野村栞由**が得点を重ねることもできる。これら充実した戦力が有機的に機能していけば優勝の可能性も十分ある。公立高校は駿河総合(平成25年度に県立静岡南と静岡市立商業を再編して開校)の前身である静岡南以来4年間優勝から遠ざかっているだけに公立高校の意地を見せ、開校4年目での初優勝を狙う。

東部覇者の**市立沼津**も優勝候補の一角である。県総体では準優勝しインターハイにも出場、2回戦まで駒を進めたがウィンター県予選では準々決勝で惜敗。しかしながら今回の東部予選では磐石の強さを見せて優勝を飾った。県選抜選手にも選ばれた**遠藤真帆**は積極的にインサイドに切れ込むプレーが魅力で1vs1の勝負も得意とするプレイヤー。**飯田帆乃香**もインサイドプレーを得意とし、粘り強いディフェンスが持ち味。チームも多彩なディフェンスのバリエーションを持っており、粘り強い守備からリバウンドを奪っての速攻を繰り出すことが出来れば他チームの脅威となることは間

違いない。8年ぶりの優勝を飾ることが出来るか、まずは準々決勝で対戦が予想される常葉学園戦が大きな山場となる。

浜松海の星は西部新人では第3シードながら西遠女子、浜松学院という強豪を連破し見事優勝を飾った。チームワークの良さが特色で勢いに乗ると手が付けられないチームでもある。エース・**飯島桜**をはじめ、**小笠原萌楓**、**松原明音**、**鈴木凜花**など戦力的にも申し分なく、インサイド・アウトサイドどこからでも攻撃の糸口が見出せるのも特徴。「女子校の伝統校」として長らく県内女子バスケット界を牽引してきた浜松海の星だが、今年4月から男女共学となり学校名も「**浜松聖星**」に改称し新たなスタートを切ることとなる。この大会は「**浜松海の星**」で臨む最後の大会となり、選手たちが心の中に秘めるものも大きいだろう。第1シードで挑む今大会でまずは3年ぶり2回目となる東海新人出場を目標に、さらには初優勝を狙い1日、1試合でも多く「**浜松海の星**」として試合が出来るよう全員の気持ちは一つになっているに違いない。

3地区覇者とともに浜松開誠館を迫る中部予選準優勝の**常葉学園**。主将に就任した**野本陽香**はディフェンス時に強烈なプレッシャーで相手のミスを生かすプレーが得意で、チームが苦しい時に長身を利してディフェンスリバウンドからの速攻プレーで何度もチームの窮地を救ってきた。常葉としては野本を起点としたスピーディーな展開に持ち込みたいところである。**井上麗**は新チームの得点源で確実性の高いシュートでチームを支える。ウインター県予選準決勝ではチーム最多の19得点を記録した。外からシュートを放つ選手ではないが勝負どころでゴール下からシュートを決められる能力は県内有数である。その他にも飛び込みのリバウンドを得意とする**山下あい**や新・司令塔、広い視野を持ち多彩なパスを繰り広げ、ディフェンス時には執拗なプレッシャーをかけブレイクにつなげることも出来る**北村音緒**など魅力的な選手も数多く擁し選手層の厚さが目につく。ウインター県予選準決勝、そして中部新人決勝と続けて駿河総合に敗れた悔しさをバネに、2年ぶり14回目の優勝とともに女王奪還も目指す。

浜松学院は島田、駿河総合との戦いが予想される厳しいブロックに入ったが、フォワード陣の**添田涼葉**、**伊藤百音**が持ち前の体を張ったディフェンスからリズムをつかんでいけば十分に勝機は見出せる。最終的な目標は言うまでもなく県内初となる県大会アベック連覇であろう。

ウインター県予選3位、東部予選準優勝の**沼津中央**も侮れない。「パッシング」主体のチームで、ボールマン以外の選手も絶えず「合わせ」を繰り返し連続的なオフェンスチャンスを創り出していくのが特徴。司令塔・**文屋萌々華**は華麗かつ正確なアウトサイドシュートが魅力。ウインター県予選準決勝・浜松開誠館戦でも3Pシュート3本を含む20得点をたたき出した。センター・**佐藤優樹**のインサイドプレーにも見るべきものがあり、ウインター県予選同様台風の目となるのか注目したい。

その他県選抜にも選ばれた**杉本ちひろ**や**柴田珠リ亜**、**駒形伊恭**、**滝澤有希**など豊富な戦力でタフなバスケットを展開する**藤枝順心**、西部予選3位、主力だけでなく控えの層も厚みを増してきた**浜松市立**、そして惚れ惚れするような素晴らしいゴディーバランスを誇る**杉山花菜**や司令塔・**市川礼菜**を擁する**島田**なども虎視眈々と東海新人出場を狙う。